

暫 定 版

※確定版の会議録ではありません。今後修正される可能性がありますので、御注意ください。

防災・減災対策調査特別委員会記録

日	令和7年7月10日（木）（閉会中）			
時	午前10時0分 開議（ 休 憩 な し ） 午前10時24分 散会			
場 所	第2委員会室			
出席委員	小 坂 さとみ	向 後 保 雄	茂 呂 一 弘	野 島 友 介
	石 川 弘	渡 辺 忍	岩 井 雅 夫	麻 生 紀 雄
	佐々木 友 樹	森 山 和 博	宇留間 又衛門	
欠席委員	な し			
担当書記	市 場 涼 介 遠 藤 知 美			
説 明 員				
調査案件				
協議案件	今期の委員会の進め方及び調査項目に関する協議について			
そ の 他	委員席の指定 委員会視察について 次回開催日について			
委 員 長 小 坂 さとみ				

午前10時0分開議

○委員長（小坂さとみ君） ただいまから、防災・減災対策調査特別委員会を開きます。

委員席の指定

○委員長（小坂さとみ君） 委員席につきましては、ただいまお座りの席を指定したいと思いますので、御了承願います。

本日の協議案件でございますが、正副互選後、初めての委員会となりますので、今期の委員会の進め方及び調査を行う項目について御協議いただきたいと存じます。

また、委員会視察について御協議願いたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

今期の委員会の進め方及び調査項目に関する協議

○委員長（小坂さとみ君） それでは、協議を行います。

当委員会におきましては、令和5年の臨時会で激甚化、頻発化する豪雨や首都直下地震などの自然災害への確に対応していくための防災・減災対策について調査することを目的に設置されております。

これまでの2年間の主な調査内容としては、災害救助法に基づく救助実施市の実務、総合防災拠点としての危機管理の取組、能登半島地震を踏まえた大規模災害時の対応について積極的に調査活動を行ってきたところです。

一方、防災・減災対策を取り巻く環境においては、様々な課題があることから、引き続き調査活動を進めていくに当たり、委員の皆様から調査すべき項目について、事前に御提出をお願いしたところです。

しおり1番の調査項目提案一覧表を御覧ください。

委員の皆様からは、調査項目として避難所運営に関すること、大規模な地震への対応に関すること、災害時のライフライン確保に関することなどについて御提案をいただいたところです。

正副委員長で皆様の御提案を基に今期の調査項目を検討した結果、災害時の避難所運営は住民の命を守る要であり、自助、共助の重要性を市民一人一人が認識することが重要であると考え、調査項目は避難所運営の実効性の向上についてを中心に進めていきたいと考えておりますが、いかがでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小坂さとみ君） ありがとうございます。

それでは、ただいまの協議を踏まえまして、今期委員会で調査する項目は避難所運営の実効性の向上についてを中心とすることに決定したいと思います。

では、一覧表にお戻りください。

委員の皆様からいただいた御意見のうち、本調査項目に係る具体的な調査案件として、福祉避難室の設営に関すること、ペット同行避難に関すること、トイレ、キッチン、ベッドなど避難生活の環境改善に関することなどがございましたが、今期、優先的に調査したい内容はございますでしょうか。避難所運営委員会の実効性だけでは少し漠然としているので、特にどのような項目を重点的に調査したいかについて。では、宇留間委員。

○委員（宇留間又衛門君） 当地区でも確かに避難所運営委員会をやっています。その中で一番大切なことは、避難の確保やトイレなどをどのようにやったらいいだろうということで、やっているけれども、実際にはなかなか意思疎通ができない。

だから私たちも、町内でもそうですけれども、一般の人に避難所運営委員会に出てこいと言っても出てこないんです。

本当は一般の人が、私たちが今日は避難所をやりますと一生懸命やっているんだけど、その伝達もこないから。

だから私はよく言っているんだけど、実際に起きたら大変だと。避難所運営委員会を一生懸命やっていますけれども、どうもうちのほうの住民はなかなか、今回だって7月の終わりにやります。出てきたのが5人、幾ら参加してくださいと言っても出てきません。実際はそうなんです。幾ら私たちが一生懸命にやっても、地域住民がまだそういう境遇に遭っていないから、やはり、遭っているところは率先して行きますとか、これをやりましょうと言いますが、絵に描いた餅になっています。その辺は私たちもよく研究をして、再度秋にやりますけれども、そういうことで、なかなか避難所運営委員会は難しいです。

○委員長（小坂さとみ君） 岩井委員。

○委員（岩井雅夫君） 今、宇留間委員からもありましたけれども、私も町内会長をやっていますけれども、避難所運営委員会は実際には活動していません。

やっている地域はあるのですが、私の犢橋小学校地区は小学校が避難所になっていて、その備蓄倉庫の点検や、そういった形ではやっていますけれども、実働的に人を動かして避難訓練をしているなど、そういったものは、多分やっているところは少ないのではないかと。ましてや、組織ができていないところも地区にはあると思います。

ですので、そういった基本的な部分から調査して、きちんとした避難所運営委員会が実働しているかどうかを調査する必要があるかと私は思っています。

以上です。

○委員長（小坂さとみ君） ありがとうございます。石川委員。

○委員（石川 弘君） 実際にこの避難所運営委員会に参加している方や運営方法の温度差が、町内会が結構携わっているところが多くて、私も同じく一町内会長で、うちは650世帯ぐらいしかないけれども、すごくいろいろ避難所運営をやっている人たちの温度差が非常にあります。あと、興味を持たせること、やはり大きな東日本大震災の後などのときには、皆さんの身近に起きていたので結構興味があって、いろいろな防災に関して参加していたけれども、もう10年を過ぎて、今は東日本大震災から14年目ですか、だんだん薄れてきています。それで避難所運営委員会のスタッフも、本来は町内会のスタッフとは別の人たちを選ばなくてはいけないのですけれども、結構一緒になってしまっています。1人が二役を兼ねているのが結構多いので、興味を持ってくださる人が少ないのが現実だと思うので、やはり日頃町内会のイベントを行っていることがいかに大事か。人のコミュニケーションが、大きな災害が起きたときにすごく役に立つので、その中で避難所の在り方や、そのような知識を身につけていけば、町内会活動で、いざというときに避難所運営委員会と同じようなことがすぐ立ち上げられることを私は感じています。

ですから、今後はやはり、ただ避難所運営委員会という形ではなくて、もう少し町内会をう

まく充実させて、結構町内会も希薄になってきていますけれども、それをうまく充実させて、いざというときのコミュニケーションを日頃から取っていれば、いざというときのいち早い対応につながると私は認識しております。

ですから、やはり人とのコミュニケーションがいかに大事かが、避難所運営委員会にもつながるのではないかと考えております。

以上です。

○委員長（小坂さとみ君） ありがとうございます。茂呂委員。

○委員（茂呂一弘君） お三方のお話を聞いて、私自身が思っているのは、やはり実際にそういった災害に直面していないところ、経験がないところが避難所運営委員会には参加しないなど、要するに、自分ごととして捉えられないのは一つ原因としてあるのではないかと思います。例えば、東日本大震災と先ほど石川委員がおっしゃいましたけれども、実際に被災された地域、当然その地域も災害が起きるまでは同じような状況だったかと思うんです。

起きてから、大分やはり意識やいろいろなものが変わったと思うので、実際にそういった被災地に、被災地のどこを選ぶかはともかくとして、被災地で災害が起きる前と起きた後でどのように変わったのか、避難所運営の在り方、運営委員会の在り方や、そうしたものを研究してみるのも一つありかと思えます。

その結果、こうすれば避難所運営委員会なども活性化してくる、避難所運営の在り方ももっと充実したものになるなど、そのようなことが学べるのではないかと思います。

以上です。

○委員長（小坂さとみ君） ありがとうございます。麻生委員。

○委員（麻生紀雄君） 少し私のほうの紹介をさせていただきます。私の町内は1,300世帯ありまして、自治会長をやらせていただいておりますけれども、自主防災組織は6つの自主防災組織を立ち上げて、もう20年ぐらい運営しています。

実際に避難所委員会も立ち上げておりまして、今、委員長も務めていますけれども、避難所委員会は1つの町内会だけでなく、3つも4つも重なり合っただけの避難所委員会を開催させていただいて、定期的に開催もさせていただいていますし、人も集まって運営もできているつもりでございます。

ただ、実際に災害が起こったときに、そのメンバーが集まれるかが一番の問題です。皆、仕事をされている方も多数いらっしゃいますし、どういう環境で災害が起こるか分かりませんので、そのときにその避難所がどのように運営されるかは、集まったメンバーで運営するしかないのが実態でございます。

ただ、皆さんがおっしゃったように、私たちは体制はできていますが、維持するのがとても大変で、訓練や、おっしゃるとおり実際に避難所の開設訓練はできていない部分もありますけれども、日頃の防災訓練も含めてですけれども、そういった今、ネタがなさ過ぎて、行政にも相談しますけれども、体制を維持するのは非常に大変でございます。

ですから、避難所運営の訓練はこうするものだななど、何か、いいモデルをいろいろ集めていただいて、そういったものも紹介していくのも一つの手法かと思えますので、付け加えさせていただきます。

以上です。

○委員長（小坂さとみ君）　ありがとうございます。佐々木委員。

○委員（佐々木友樹君）　私も避難所運営委員会の一委員として参加をしております。

美浜区は分散避難、在宅避難が呼びかけられていることもありまして、その前段となる防災会の役割もすごく問われていることで、より住民の皆さんに身近な自治会や防災会のところで、避難してくる方をどうするのかの議論をしているところです。

避難所運営委員会のほうに集中してしまうと、やはりそこで今、体制の問題などもお話されていましたが、そういった疲弊してしまうということも想定されるので、いかにふんから啓発をしていくかという取組が私は重要かと思っています。

もちろん公助の部分についてももしっかり取り組んでいくことが必要ですけれども、やはり大多数は市民の皆さんの協力なしにはいきません。そういった部分で、私は能登半島の支援もいろいろと行った中で、体育館に避難していわゆる悲惨な生活を強いられたところもあれば、コミュニティがしっかりしているところで、避難所の運営の体制がしっかりと取れていたところも実はあったということもお聞きしました。そういった課題や先進的な取組などをしっかりと調査して、千葉市の何かモデル的なものをしっかりとつくっていく必要があるのかと私は感じておりますので、そういった調査をしていただければと思います。

○委員長（小坂さとみ君）　ありがとうございます。渡辺委員。

○委員（渡辺　忍君）　避難所運営委員会と、あと自主防災組織と、それぞれ組織率と実行率があると思うのですが、組織率は、今、避難所運営委員会はほとんどもう100%近く組織されていますが、では防災訓練だったり、避難訓練だったりということまで、実際に避難所を立ち上げたりまでやっているかを見ると、実行率はホームページにも出ているのですが、実際には8割方やっていますと言っているが、結局職員だけ集まって来て、ほぼ数人でやったものをやったと言っていて、町内の町民は皆さん出ていないような状況が多いと、実際に調べたときには半数や半数以下でした。

なので、私は年間調査テーマに実行率を今回挙げさせていただいたのですが、トイレやペットなど、単独のそれぞれの備蓄品などという項目ではなくて、今も既に皆さんから出てきたと思うのですが、訓練に参加する、皆さんが集まる意識を上げるのにうまくいく仕組みが全国にあるのであれば、日常の防災で、防災のフェーズとして、いろいろ段階が上がったときではない日常の活動として、どこまで皆さんができているかを市内の組織自体も調査したほうがいいと思います。実際に区ごとに大分、活動状況なども違って、よい模範例を、千葉市の活動事例集もきちんと紹介されていたりして、結構担当課の方は頑張っていらっしゃるけれども、やっているところはすごくやっている、やっていないところは全然やっていない温度差をどうやって均一化していくか。みんながやれるようにレベルアップするための、市でできる後押しといいますか、防災訓練を自発的に自治体がやるのを見守っていますという姿勢ではなくて、市がどこまでバックアップや旗振り役として毎年、今年はこれを、モデルのようなものも当局が頑張っていて今年はトイレの調査をしようなど、いろいろテーマを持ってやってくださっているのは知っていますが、まだまだそれが届いていないと考えております。

なので、全国的にそういったことをうまくやれている、避難所での開設訓練など実効性のある訓練をどこまで進めているかという調査を私はしたいと思っています。

以上です。

○委員長（小坂さとみ君）　ありがとうございます。森山委員。

○委員（森山和博君）　避難所運営で、これまでも多分災害を繰り返し経験して、いろいろ避難所運営をよくしていこうとはなさっているんだけど、なかなか小中学校の体育館だけの避難所運営だけでは難しくて、分散避難という考え方が浸透してきました。

先日、向後副委員長と中央区の臨海部のブラウシアというマンションの主催の防災意見交換会に出席させていただいたのですけれども、非常にレベルの高い運営をなさっている方々ですが、逆に千葉市がパンフレットで作っている分散避難というリーフレットの中に、地域避難施設という指定の仕方がありますと。ただ、それにはやはり条件があって、なかなかマンションが思っているようには使えないような状況です。

でも、少しずつ皆さんが頑張っている意欲をそがないように、行政も応援しなければいけないと思ったので、少しずつでもいいので、既存では千葉市は、指定避難所はこういうものというのはあるかもしれないけれども、もう少し弾力的に運用できるようなものを、この防災・減災対策調査特別委員会で調査できて、このような良い事例がありますという明示ができればいいと考えました。

以上です。

○委員長（小坂さとみ君）　ありがとうございます。向後委員。

○副委員長（向後保雄君）　避難所運営委員でも温度差があることは、今お話があったとおりで、ブラウシアのようにすごく積極的にやっているところもあれば、黒砂台なども非常にすばらしいところだと聞いていますし、大規模災害時は避難所運営委員会の人たちだけでやるかどうかは分からないので、だから誰でもできる状況をつくらなければいけないのを、もっと知ってもらわなければいけません。

だから実効性というのはそういう意味だと思うのですけれども、市はそのようなものを求めていかないと、発信していかないと、大規模災害時にうまくいかないだろうと思うので、この後、視察の話もあると思いますけれども、そういったところを、他市でも先進的なものがあれば学んでいきたいと思うし、市内も含めて我々はまず勉強して、市民に伝えていくことも大事なことなので、ぜひそれをやりたいという思いで、私も避難所運営委員会の運営についてを提案させていただいたところです。

以上でございます。

○委員長（小坂さとみ君）　ありがとうございます。その他、御意見ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小坂さとみ君）　今、各委員の皆様からたくさんの御意見をいただきました。避難所運営委員会は実質的な稼働がなかなかできていないのではないかなど、温度差があることで、今後本当に実質的な稼働をするためには、例えば、能登の災害がありましたけれども、災害の前と後でどのように変わったのか、また具体的なペットがどうこうなどという話ではなく、全国的に実質的に稼働している事例などを調査したいとの御意見をいただきました。

このような意見を踏まえまして、今委員会での調査活動内容につきましては、正副委員長で検討いたしたいと思います。

それでよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

暫 定 版

※確定版の会議録ではありません。今後修正される可能性がありますので、御注意ください。

○委員長（小坂さとみ君） ありがとうございます。ではそのようにさせていただきます。

なお今期の委員会活動スケジュール等については、正副委員長に御一任いただきたいと思います。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小坂さとみ君） ありがとうございます。

それでは、調査項目が決まり次第、委員の皆様へ御報告させていただきたいと存じます。

また今期の委員会の開催スケジュール等につきましても、正副委員長に御一任いただきたいと思います。

以上で、今期の委員会の進め方及び調査項目に関する協議を終了いたします。

委員会視察について

○委員長（小坂さとみ君） 次に、委員会視察について御報告申し上げます。

委員の皆様の日程を調査した結果、視察日は令和8年1月20日火曜日から1月21日水曜日の1泊2日といたしますので、よろしくお願いいたします。

なお、視察テーマにつきましては、調査項目を踏まえて検討し、視察先に関しましては、先方の都合等もございますことから、テーマ及び視察先につきましては正副委員長に御一任願います。

次回開催日について

○委員長（小坂さとみ君） 最後に、次回の委員会開催日についてでございますが、正副委員長において日程を調整の上、改めて皆様へ御連絡をさせていただきますので、御協力をよろしくお願いいたします。

それでは以上をもちまして防災・減災対策特別調査委員会を終了いたします。

本日は御苦労さまでした。

午前10時24分散会